これ以外の場合には、

$$K=\sqrt{\frac{\theta_{max}-\theta_{e}}{\theta_{max}-\theta_{min}}}$$

この場合において、

θminは、旅客船については七度とし、貨物船については二十五度とする。

θmaxは、旅客船については十五度とし、貨物船については三十度とする。

4　係数S momiは、旅客船についてのみ適用し（貨物船については、S momi＝1とする。）、最終的な平衡状態において次の式によって計算する。

$$S_{momi}=\frac{(GZ_{max}-0.04)\cdot Displacement}{M_{heel}}$$

この場合において、

排水量（Displacement）は、区画喫水での非損傷時の排水量とする。

M heelは、4.1の規定に従つて計算する仮定した傾斜モーメントの最大値とし、S momiが1とする。

4.1　傾斜モーメント「M heel」は、次のとおり計算する。

M heel＝maximum｛M passenger；M wind；M SurvivalCraft｝

4.1.1　M passengerは、旅客の移動により生ずる仮定した傾斜モーメントの最大値とし、次のように得られる。

M passenger＝（0.075．Np）・（0.45．B）（トン・メートル）

この場合において、

Npは、考慮する最高区画喫水に対応する航行状態において乗船を認められる旅客の最大の人数とする。

Bは、船舶の幅とする。

これに代えて、傾斜モーメントは、招集場所が位置する甲板における船舶の一の側に向かつて利用可能な甲板区域において旅客が一平方メートル当たり四人が配置されること及びこのような方法でこれらの者が逆方向の最大傾斜モーメントを生ずることを仮定して計算することができる。この場合において、旅客一人当たりの体重は、七十五キログラムであると仮定する。

4.1.2　M windは、損傷状態において作用する最大の仮定風力モーメントとする。

M wind＝（P．A．Z）／9806（トン・メートル）

この場合において、

Pは、120N／m2とする。

Aは、水線上の横投影面積とする。

Zは、水線上の横投影面積の中心からT／2までの距離とする。

Tは、船舶の喫水とする。

4.1.3　M　survivalcraftは、船舶の一の側にあるすべてを満載したダビット進水式の救命用の短艇及びいかだの進水により仮定した傾斜モーメントの最大値とし、次の仮定を用いて計算する。

.1　損傷を受けた後に船舶が横傾斜した側に取り付けられているすべての救命艇及び救助艇は、満載で、かつ、降ろすことができるよう振り出す。

.2　積付け場所から満載で進水するよう配置された救命艇については、進水中の最大傾斜モーメントによつて計算する。

.3　損傷を受けた後に船舶が横傾斜した側にある各ダビットに取り付けられている満載したダビット進水式の救命いかだは、降ろすことができるよう振り出す。

.4　振り出される救命設備内にいない者は、追加の傾斜モーメント又は復原モーメントのいずれも与えないものとする。

.5　船舶が横傾斜した側の反対の船側にある救命設備は、積付け場所にあるものと仮定する。

5　非対称浸水は、効果的な配置により最小限度に保つことを要する。大角度の横傾斜を修正する必要がある場合には、採用される設備は、実行可能な限り自動的に作動するものでなければならない。平衡化装置に対する制御装置が設けられる場合には、その制御装置は、隔壁甲板の上方から操作することができるものでなければならない。制御装置を含むこれらの設備は、主管庁の認容するものでなければならない。平衡化装置の使用に関する適当な情報は、船長に提供されなければならない。

5.1　平衡化に関与するタンク及び区画室には、平衡化区画室への水の流入が遅れないよう確保するために十分な断面を有する空気管又は同等の装置を備える。

5.2　沈下、傾斜及びトリムを考慮して、最終的な水線が次のものを水没させるときは、すべての場合において、siは、ゼロとする。

.1　浸水を進行させる可能性のある開口の下縁であつてそのような浸水が係数siの計算について考慮されていないもの。そのような開口には、空気管、通風筒及び風雨密の戸又はハッチ・カバーにより閉鎖される開口を含む。

.2　第二―二章の規定に適合する水平の避難口とみなされる旅客船の隔壁甲板のいずれかの部分

5.3　係数siは、沈下、傾斜又はトリムを考慮して、浸水の中間段階又は最終段階において次のいずれかのことが起こる場合には、ゼロとする。

.1　第二―二章の規定に適合することが意図された隔壁甲板の垂直脱出ハッチの水没

.2　水密隔壁の完全性を維持することが意図された水密戸、平衡化装置、管系又は通風ダクトの弁の操作のための隔壁甲板の上方からの制御装置に接近することができなくなり、又は当該装置を操作することができなくなる場合

.3　各水密境界に水密閉鎖装置を備えていない場合には、到達指数Aに寄与する損傷状態に含まれる区画室内に位置する水密境界を通る管系又は通風ダクトの一部の水没

5.4　もつとも、浸水の進行によつて浸水すると仮定される区画室が損傷時復原性の計算において考慮される場合には、S intermediate, iの複数の値を追加的な浸水局面における平衡化を仮定して計算することができる。

5.5　5.3.1に規定する場合を除くほか、水密のマンホールのふた及び舷窓で閉鎖される開口、小さい水密ハッチ・カバー、遠隔操作の水密滑り戸、非開閉型の舷窓並びに海上で閉鎖しておくことを要求される水密出入口及びハッチ・カバーは、必要としない。

6　水平の水密な境界が考慮する水線の上方に備えられている場合には、これより低い区画室又は区画室群について計算されるsの値は、6.1の規定による減少係数vmにより1.1の規定において決定する値であつて水平区画の上方の区域が浸水しない確率を示すものを乗じて得られるものとする。